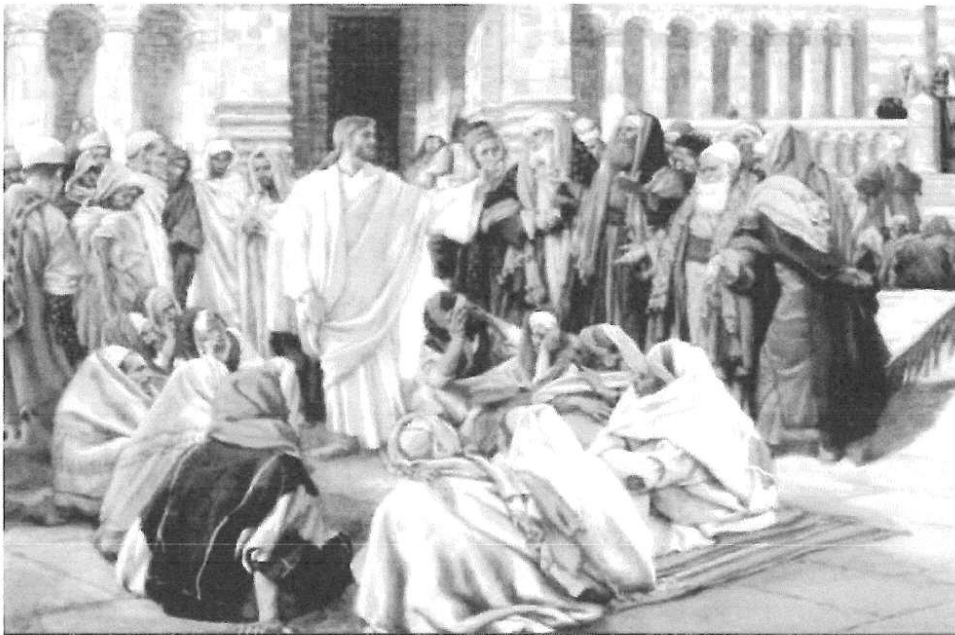


## ＜生きている者の神＞

マルコ12：18～27



サドカイ派の人との復活論争

イエスさまが十字架に架かれる3日前のこと

また、復活はないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのところに来て、質問した。【18節】

### ＜サドカイ派の人々＞

- ・熱心なユダヤ教の一派。しかし復活を信じていない。
- ・知識階級、上流階級に属した裕福な人たち。
- ・モーセ五書だけを重んじて、言い伝えや戒めをあまり重要視しない。
- ・非常に世俗的で政治的な野心の持ち主。福音の真理や敬虔な生活は関心がない。

「復活はない」を論破する為にモーセ五書を引用 → 申命記25：5，6節

『もし、兄が死んで妻をあとに残し、しかも子がない場合には、その弟はその女を妻にして、兄のための子をもうけなければならない。』

さて、七人の兄弟がいた。長男が妻をめとつたが子を残さないで死んだ。そこで次男がその女を妻にしたところ、やはり子を残さないで死んだ……七人とも子を残しませんでした。復活の際、彼女は誰の妻になるのか？

＊家督を継承するための制度・レビラト婚

イエスさまが語る復活は、サドカイ派のものと相違点があった。

- ・イエスさまは自分の十字架の死と復活に関して、これから起こる事実について語っていた。
- ・本質的に全く違った次元のもの、「新しい創造」を語っていた。

イエスは彼らに言われた。

「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではありませんか。」【24節】

この世に生まれてきた人は必ず人死ぬ。だから、家督を存続させるための再婚が必要になる。しかし、復活はもはや死ぬことがない。めとることも嫁ぐことも不要なのだ！

サドカイ人は現代人とも重なる

人間の知恵によって聖書を読み、復活を理解しようとする。

結果、人の知識の領域を超えた真理に行きあたると信じる事が出来ない。

死人がよみがえることについては、モーセの書にある柴の個所で、神がモーセにどう語られたか、あなたがたは読んだことがないのですか。『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。【25, 26節】

三人はすでに死んでこの世にいない。しかし神は「わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」と名乗った。

神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。【27節】

自分は何かを知っていると思う人がいたら、その人は、知るべきほどのことをまだ知らないのです。

I コリント 8 : 2

サドカイ人は、復活をこの世と同じような世のように考えた。

しかし、そうではない！

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

I テサロニケ 4 : 16、17